

序

厚生省児童家庭局母子衛生課所管の心身障害研究課題のうち、小児慢性疾患臓器系に関する研究グループは、昭和52年度より新しいテーマで発足し、昭和54年度まで3年間の研究を行い、夫々研究目標を達成して3年間の研究業績をまとめることになった。本報告書は、いわば本研究班の総括ということになる。

各研究班のうち、尿路奇形に関する研究班は昭和53年度より新たに加わり、2年間の研究を行った。また鎖肛術後排便障害に関する研究班は昭和54年度の1年間のみの研究で業績がまとめられた。さらに昭和47年度に厚生省母子衛生課により小児慢性疾患の疫学調査が行われたが、その後種々の検討課題が生じたために、小児慢性疾患の疫学的研究に関する研究班が今年度新たに加わり、小児慢性疾患の治療研究の評価と将来の指針策定に関する研究を行うことになった。

各研究班の研究課題と研究班員は次のごとくである。

1. 尿路疾患に関する研究
 - 1) 小児尿路感染症に関する研究
分担研究者 小林 収 (富山医薬大小児科)
 - 2) 小児の尿路奇形に関する研究
分担研究者 吉田 修 (京大泌尿器科)
 2. 小児胸部疾患に関する研究
 - 1) 小児心筋炎に関する臨床的研究
分担研究者 大国真彦 (日大小児科)
 - 2) 先天性心疾患手術後の長期予後調査と管理基準に関する研究
分担研究者 三枝正裕 (東大胸部外科)
 3. 川崎病の突然死予防に関する研究
分担研究者 草川三治 (東京女子医大小児科)
 4. 日本人小児の高脂血症に関する疫学的並びに臨床的研究
分担研究者 熊谷通夫 (都立清瀬小児病院)
 5. 小児気管支喘息の臨床的研究
分担研究者 小林 登 (東大小児科)
 6. 乳児閉塞型黄疸の早期診断法の開発と管理基準の設定に関する研究
分担研究者 白木和夫 (東大小児科)
 7. 若年性関節リウマチに関する研究
分担研究者 寺脇 保 (鹿大小児科)
 8. 鎖肛術後排便障害に関する研究
分担研究者 秋山 洋 (国立小児病院外科)
 9. 小児慢性疾患の疫学的研究
分担研究者 加藤精彦 (慶大小児科)
- 評価委員 高安正夫 (国立京都病院)
蒲生逸夫 (兵庫医大小児科)
村上勝美 (日本医大小児科)

本報告書は、これらの研究班の研究業績の昭和54年度の成績および3年間の研究の総括をまとめたもので、多くの注目すべき業績が含まれている。多くの診断基準、判定基準、管理基準などは臨床的にも極めて重要なもので、実際に既に臨床的に用いられ始めているものも少くない。今後これらの業績の普及ものぞまれ、本報告書の各方面の御活用を期待するものである。

昭和55年3月

主任研究者(班長)

日本大学教授 大 国 真 彦